

# おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー一部報第 13 号 (9 月 20 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

顧問今野の実父の逝去(9月10日)に際しまして、保護者会、後援会の皆さまより温かい弔電、ご香典を頂戴いたしました。御礼申し上げます。

## 地区新人負けて県新人に参加できず

9月9日(土)10日(日)村山地区新人大会が地区大会の聖地山形市スポーツセンター(落合)にて行われました。今年から各地区に割り当てられる県新人の枠の決まり方が変わり<sup>1</sup>、県新人16チーム中、村山地区からは6チームが県大会の切符を手にする。プリンスリーグ東北に参戦中で、地区新人と日程が重なる山形中央は村山地区1位の枠が与えられ、すでに参加が決定しているので、山形中央を除くチームで5つの切符を争うことになる。

山東の初戦の相手は天童高校。試合前伝えておりました。「**今日の作戦はババ(2年)**。FWのババに当てる。馬場はそのボールを競り合って、何とか攻撃につなげなさい。」今年の山東、つなごうにもつなげない。しかも、会場はクレー(土)。リーグ戦の人工芝でもボールが収まらないのに、クレーで収まるわけがない。しかも、会場は硬い土でボールがよく弾むことで有名なスポセン。**フレー中なぜかいつも不敵な笑みを浮かべているババ**へのダイレクトな攻撃から活路を見いだすしかないと判断。**初先発のババ**は前日先発を告げられ、緊張気味。会場には、**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**という「いつもの御三方」と**数多くの保護者の皆さま**がいつも通りいらっしゃる。また、**佐藤校長**も会場入りし、応援して下さった。試合が始まると、山東やや優勢ながら、圧倒的な試合展開じゃない。中盤でやはりミスが多く、繋がりに欠ける。ただ、球際で山東の選手の方がガッツイテいる分、山東のボール保持の時間の方が長いことは長い。前半で**2年ボランチヨーティ**がいつも通り！押さえて打って決めるだけというボールを上に乗かし、逸機。後半も決め手に欠き、PK合戦かと思いきや、後半の終盤、左サイドからボールを受けたババがスク

<sup>1</sup> 昨年までは、県総体ベスト4を出した地区に出場枠が与えられ、それを除く12チームの枠を登録チーム数・登録人数で機械的に算出し、割り振っておりました(大会自体は16チームで構成)。昨年は、村山地区から県総体ベスト4に3チーム排出しましたので、登録チーム数・登録人数で割り振られる5チームに加え、3チーム分、合計8チームが村山地区のチームでした(初戦のすべてのカードが村山地区対他地区代表という構図だった)。「県総体のチームと新人チームは別であり、県総体に基づくシードは選手権の県大会で採用しているのだから、県新人にまで持ち越すべきでない」という判断に基づき、大会の全16チームを登録チーム数・登録人数で機械的に算出し、割り振ることといたしました。その結果、村山地区の今年の参加チーム枠は山形中央を含め6となりました。県総体ベスト4に村山地区から1チームしか行けなかったのと同じ計算となり、村山地区とすれば恐らく過去最低の枠数となりました。

リーントーン<sup>2</sup>で反転し、ゴール目の前という最高の状態を自分で作り出し、右足でゴール！ **ババよ、初得点おめでとう！！** ベンチからは、多くの保護者（特にお母さん方）が小躍りする様子が見える。ババさんを祝福しているんだろうな〜。ということで、この試合、1対0の辛勝。まあ、このチームなら、初戦でPK合戦負け、などの結果でも驚かないと受け止めていたので、辛勝でもうれしいはうれしい。

次は同日、山本学園戦。選手には伝えてありました。「(同時刻に行われていた)山本の試合をほとんど観れてないが、実力は恐らく我々より上。ただ、45対55で相手が上回っているという僅差だろうから、本番の頑張りで上回り得る。これに勝って県新人を決めよう。」そうなんです。この試合勝つと、県新人が決まる。試合は・・・いろいろなことがあってあまり覚えていないのですが、やはり山東の攻撃は精度を著しく欠くものだから、全く繋がらない。球際でも最後の一步を寄せ切れない甘さがあるため、相手が特別のことをしてこなくても、ゴール前に運ばれ、呆気なく失点してしまう。ということで、0対2の完敗。実力的に言って山本の方が上という見立ては間違っておりませんでした。本番の頑張りで勝利に導く監督力に、欠けていました。来年までは、この差を埋めたいものです。

翌日は冒頭部でお断りしました事情により、監督今野が不在だったため、高橋コーチに指揮をお任せ致しました。下記は、「**試合を、分析しながらよく観ていた**」のでレポート書くとしたら適任だと志村顧問から太鼓判を押された故障中1年アキシンことアキバがお送りします。

皆さん、こんにちは。今回は今野先生不在のため、**膝を負傷中のヒザシンこと1年アキシン**がお伝えしていききたいと思います。

9月10日(日)に新人戦地区大会二日目が行われた。この日未明に今野先生のお父様がお亡くなりになり、急遽今野先生不在の中での試合となってしまったが、高橋コーチ(この日は監督)や志田さん(トレーナー)、志村先生のご指導のもと、選手達は試合へのモチベーションを上げていった。

選手達は前日の試合の疲れもあるようだったが、そんなことは言ってもらえない。前日の試合を落としており、この日全勝しなければ後がない山東は、**本校最強のムードメーカー2年GMタカヒラさん**を中心にアップを進めていく。

第1試合目は対明正戦。**会場には現三年生も応援に来て下さった(感謝)**。選手は試合直前に黙祷、そして円陣を組み士気を高めて試合に臨む。最初はボールが落ち着かない時間帯が続くが、しかしそんな中でも1つ1つのプレーをシンプルにしていくことで山東の流れになっていく。この試合**トップのタカヒラさん、ヤマモトさん、リョウタロウさん** [編者注キクチャン]にボールを集め始めるとボールがつながり始め、シュートシーンも増えてくる。そんな中、右サイドのヤマモトさんが相手のディフェンスラインの間を通る逆サイドへの早いパス、そこに**俊足のリョウタロウさんが走り込み、相手DFと競り合いながらも相手GKをよく見た技ありシュートを相手ゴールに流し込み**、山東待望の先制点が入る。**高橋コーチの戦術がぴったりとはまった得点**であった。得点直後も気を抜かない山

<sup>2</sup> ボールと相手の間に自分の体を入れることをスクリーンと言います。ボールを遠ざけ、相手に奪われないようにする技術です。

東。**センターバックの2年フトシさんと1年オサ**が積極的な、それでいてバランスのとれたディフェンスを見せ、前半を1対0で終える。

後半も山東の流れが続くが、攻撃面で**左サイドバックの1年ノブ**がクロスを蹴り込むも、中で合わせる人がおらずボールが繋がらないシーンが数本あった。相手のロングボールには、**右サイドバック1年ダイキ**がパワーあるヘディングで相手のボールをはじき返すシーンが。そんな中、ヤマモトさんがペナルティーエリア付近（やや右側）で倒されてFK。一同「そこはPKでは!？」と思ったがどちらにせよビッグチャンスには変わらない。キッカーは、タカヒラさんとヤマモトさんが。今年の山東でFKに二人立つシーンはあまり見かけなかったが、**ここはファールをもらったヤマモトさんが蹴り、冷静に壁の外側を微妙に巻くボールで左のサイドネットを揺らし2得点目**。新チーム公式戦初めての複数得点で更に流れに乗った山東。またしてもヤマモトさんのパスからオフサイドギリギリで抜け出したフリーの**1年ニコラスことシオン**へ。ニコラスがキーパーとの1対1でキーパーの手に当たらないような**技ありルーフで三点目**。**ニコラスの、この場面でこの落ち着き、そしてこの技術、これには味方一同も驚きの表情（笑）**。このまま**3対0**で山東が勝ち、代表決定トーナメント決勝戦へ駒を進めた。

振り返ってこの試合（明正戦）は全体的に山東の流れで進められた。特にこの試合は前線三人をあまり下げず、後ろの8人でディフェンスをしていたがそれが安定しており、無失点で終えられたのは大きかった。そしてなんと言っても**ヤマモトさんの全得点に絡むフレーが光った**。しかし、全体のビルドアップが遅く、またセカンドボールを拾えないシーンも目立った。そして、今までの練習で意識してきた「パスを出した後にもう一度パスを受ける動き」が段々出来てきていたが、時間が経つにつれ声が少なくなり始めると、同時に動きも少なくなってしまうのも大きな反省点であった。**勝ったからこそ、良くない部分も目についた試合だった**のだと思う。

そして、隣で行われていた（進行の遅かった）山形商業対山形城北の試合は、PK戦の末に城北が勝ち、**[5つ目の最後の出場チームを決める]決定戦トーナメント決勝は、山東対城北のカード**となった。

約2時間のインターバルを挟んだ城北戦は、前の試合と同じメンバーで試合に臨む。前半、城北の球離れが早く、なかなか奪えるタイミングをつかめない。加えて風下ということもあり、最初から城北有利で試合が進んで行く。ヘディングでの競り合いでは勝つシーンが多いものの、そのあとのセカンドボールが拾えず、城北の攻めをなかなか断ち切れない。そんな中、左サイドから崩され深い位置から長いクロスを蹴られる。誰もが「大きい!長い!」と思った相手クロスは風でボールが押し戻され、ファーに走り込んだフリーの相手にドンピシャ。ダイレクトで決められ0対1。城北は今までワンツーやパスを多用してくるイメージだったが今回はプレスが掛かる前にアバウトなロングボールを蹴る場面が多く見られた。山東もボールを持てる時間帯が次第に増えていくが、なかなかシュートまでいけない。**特に前線三人にボールを当てた後のボールへの関わりが無く、攻撃への厚みが出せていなかった**。そのまま0対1で前半を終える。

ハーフタイム、「絶対に負けられない!」、その思いをチームメイト全員で再確認する。後半は風上に立ち前線に積極的にボールを送り始める。しかし、いや当然と言うべきか・・・

疲労とともに全員のパフォーマンスが落ちていく。しかしそこは相手も同様、むしろ前の試合でPKまでもつれた城北よりも僅かに山東の方が有利か。前半よりもボールを持てるようになってくる。しかしそれでもなかなかシュートまでいけない。途中からババさん、ミヤガワさんを投入して更に攻撃的な布陣にするが今度は右サイドから速いパスで崩され失点を許してしまう。山東も最後まで諦めず、センターバックのオサを1列上げるなどして、より攻撃的に城北ゴールを攻め立てるが一步及ばず、**結果0対2で悔しい敗戦**となった。

この試合（城北戦）ではボールを奪うタイミングをつかむことが出来ず、城北からボールを奪う回数が少なかったように感じた。そのため相手にロングボールを良い状態で蹴られてしまい、ヘディングでは競り勝ててもセカンドボールが拾えずまた相手のボールに、という場面が沢山見受けられた。「**セカンドボールの確保**」、これがこの試合で見えた最大の課題であるが、それと同様に「**ボールを奪う形、タイミング**」をチーム全員で共有することも必要である。全員が共有出来れば良い形でボールを奪い、**その後のパスコースも作れる（ここ大事）**と思う。

去年は7チームが県大会に進めた村山地区だが、今年はなぜか5チーム<sup>3</sup>！ **昨年と同じレギュレーションなら出場決定だった**が・・・今年は残念ながら県大会出場を果たせなかった。先輩方にとって最後の新人戦だったので、何とか結果を残したかったが残念。しかし、下を向いている暇は無い！ **今回の反省を来年の県総体までに活かせるかが大切だ**。現在の主戦場であるY1ではチームの大半で三年生が残っており、1、2年チームの立ち位置が初めて明確になったのが今大会。そして次の大きな目標は選手権である。**この悔しさを忘れず日々の練習に取り組んで行きましょう！**

最後に、**会場に足を運んで応援してくださった保護者、OGOB、三年生、千ア部の皆さん応援ありがとうございました**。今後も部員一同頑張って行きますので引き続き応援、ご支援の程よろしくお願い致します。

## Y1では連敗で7位以下の降格枠決定

上記の通り、地区新人2日目は選手によるマッチレポートでした。9月16日（土）、18日（月）に行われたY1では監督の今野が指揮を取りましたが、折角ですから部報今号は選手によるレポート号としたいと思います。両試合書くのは、**グラウンドマネージャー（GM）という役職で、日々の練習の指揮を取っているタカヒラとキクチャンの二人の選手に任せました**。どうぞご覧ください。

**いつも山東サッカー部報をご愛読されている皆様、こんにちは**。今回は監督、今野先生にかわりまして、2年グラウンドマネージャー、キクカワ、タカヒラがお送りいたします。

9月16日（土）、山形市球技場でY1第12節が行われた。相手はこの時点で山東と残留を争うモンテBだ。**モンテBとはこの時点で勝ち点と同じ**であり、勝てば残留に大

<sup>3</sup> 去年は、日大山形がプリンスリーグ東北に参戦しており、注1で説明しましたように、村山地区に割り当てられた8つの枠のうち日大山形を除くチームで地区新人を行い、7つの枠を争いました。

きく近づく一戦だ。選手は皆、いつも通りに気合いを入れ、試合に臨もうとしている。**何とかしてテクニシャン集団を倒したい**ところだ。そのために、練習で1対1の球際やクロスへの対応などを中心として鍛えてきた。その成果を出すことができるか、期待だ。**保護者方、OBOGの方々、「いつもの御三方」の皆さんと一緒に勝利をつかみたい。**

試合開始のホイッスルが鳴る。今回は、**クールで毒舌の2年ヨーティー**が怪我で出場できない代わりに、**ボールと女の子のどちらも追いかける2年キムタク、1年ニコラス**のダブルボランチとなり、**2年タカヒラ、3年カンタのモンテ Jr.Y 出身コンビ**で点を取りに行く。

**試合前、このチームの最大の課題である守備からしっかり入ろうと声をかける。**しかし、残留がかかって緊張しているのか何なのか、**ボールを奪った後に焦ってしまい、パスミス、トラップミスのオンパレード。**すぐに相手ボールになってしまうシーンが多すぎる。**相手がきているのかどうかを見極め、素早い判断が全くできていない。**また、中盤で五分五分のボールも奪いきれず、球際の弱さが目立つ。どんどん自陣ゴールに攻め込まれていく。**さすがモンテ、五分五分のボール、ヘディングは絶対に負けないことが徹底されている。自分達に一番足りないところだ。**そんな嫌な流れを断ち切れずに前半早々に相手FWの巧みな個人技についていけず失点。1対1の対応の甘さがすぐにでてしまった。切り替えてまずは立て直そうとするも、その後はモンテBのパス回しに翻弄され、後手を踏む時間帯が続く。ワンツーやサイドチェンジを多用され、山東苦しい。また、攻撃では、ペナルティエリア付近でフリーキックを得るなどはあったものの、これといった得点チャンスもなく、流れを変えることができないまま前半終了。

ハーフタイム、**先生から、お前らのサッカーは見ていてもつまらないと撒を飛ばされる。**なぜ、ヘディングが強いモンテに対してずっと前に蹴るサッカーを展開しようとするのかと。私たちは、どうすればモンテを相手にして自分達のサッカーができるのか、流れを引き寄せられるのかを話し合った。後半にしっかりと立て直したいところだ。

後半開始。**おっと、山東。入りがまずまずいい。**前半の反省を活かそうという姿勢が見られた。緊張が少しほぐれ、前半よりも動きが良くなっている選手が多い（本当はこれを最初からやってもらいたいものだが・・・）。しかし、今のチームの現状を考えるとなかなかこの流れは長くは続かない。また後半少し耐えたところで失点。4点取って試合をひっくり返せると信じながら皆で声をかけ合い闘うも、思い通りにはいかない。後半途中から**米沢から電車通の2年カイチ、カッパの2年カサコウことカサハラ、馬刺こと2年ババ、お祭り男2年ミヤガワ、ボールへの愛あふれる1年ウエノ**を投入し、巻き返しにでる。**2年ミヤガワの、裏へ抜け出しシュートは惜しかった。**しかし、どうしても守備の甘さがでてしまう。立て続けに2失点。このまま試合終了し、**結局0対5の完敗。**情けない敗戦となりました。しかしながら、全てが悪かった訳ではない。個人的には「**中山のドン**」**2年キャブテンフトシは安定してきた**し、一人一人が今日この試合で得たことを次につなげ、レベルアップしていくことが重要だ。ここで下を向いてはいけぬ。残りの2試合に全てを捧げ、山東が一体となって残留へ向け闘いたいものだ。保護者の皆様方、OBOGの方々、応援ありがとうございました。次は東海戦です。応援よろしく申し上げます！！

**Y1 東海に敗れ残留の夢遠のく**

9月18日(月)Y1第13節東海戦が米沢市営人工芝サッカーフィールドで行われました。相手の東海は、ここまで勝ち点17と取りこぼしはあるものの流石はY1常連高といった成績。一方山東は**この試合に敗れば降格がほぼ決定するという絶体絶命の状態**。単にやられたでは終われない大変重要な一戦となる。

不運にも、ちょうどこの時期に台風18号が山形を直撃していた。近年稀に見る巨体な台風で九州地方では沢山の被害も出ていて、昨日の練習は中止になった(実際昨日の午前中は大した被害はなく晴れていたので、「練習ができたのでは?」と今野先生。中止を言い出したのは先生なのだが・・・4)。今日の試合も危ぶまれたが、一時間遅らせ試合は決行。暴風域の会場で勝負の一戦は行われた。

さて、当日、心配していた台風は昨日の夜から朝にかけて通過しており、雨も上がって人工芝は最高のピッチコンディション。ただ、**風が非常に強い**。時折吹きつける強風に**1年タケちゃんことホンマ**はよろめいていた。まだまだ体幹が足りませんね。ともかく、この試合は、**いかに風を味方につけるか**(この環境に合ったサッカーを展開できるか)が勝負の鍵を握りそうだ。会場には「**いつもの御三方**」に加え、**高橋コーイチや沢山の保護者の方々がいらっしやる**。不甲斐ない結果が続くなか、**台風直撃にも関わらず米沢まで足を運んでくださった皆さんのためにもなんとしてでも内容、結果ともに良い試合をしたいところ**。試合前は、しっかりと守備から入り、ボールを見るだけにならず積極的に奪いに行くことを確認。失点してもそこで崩れず、チャンスが来るまで粘り強く守ることを明確にした。

さあ、キックオフ。今回の試合は**女の子のことで頭が一杯のヨーティー**に代わり、**本格的に芸人の仕事を考え始めたタカヒロ**と**実は肉食系キクちゃんことキクカワ**の2ボランチ。アンカーには**明日から定期テストの3年カンタ**、FWには**初得点以来笑顔が多い、というよりかは、やたらニヤニヤしてる2年ババ**が入り4-1-4-1のシステムで挑む。風下側の山東はただでさえ跳ばないキックが風で押し戻され、そこを拾われて序盤からピンチを招く。しかし山東、前回のモンテB戦で学んだ同じミスを繰り返さないという教訓が生きているように感じる。できるだけゴロのパスを通そうとする意図が見られ、ミスこそ多いものの成長は感じる。3年カンタがアンカーの位置で良い蓋をしてくれるおかげでボールは持たれるものの決定的なピンチは招いていないという状況。しかし、前半の35分、サイドからの攻撃で前がかりになっていたところでカウンターを受け、数的不利の状態でクロスを入れられる。1度は**1年オサ**が体を入れたもののその後の処理を誤り奪い返されて失点(**このシーン、センターバックの2人が責任を感じていたが、そもそも数的不利を作られるのが悪い**。守備をベースにした**チーム**なのだから**後ろの人数は常に1枚残してなくてはならない**)。一瞬の隙を突かれたとはいえ、**あまりにあっけない失点**であった。ただ、その後は崩れることなく、**1年ノブことヨシノブ**のゴール前での勇気ある守備(危

---

4 これについては、言い訳しておきます。台風が来るということで、日曜日の練習の中止を判断しました(とある部員が「午前中の降水確率90%です」と言ったような・・・)。しかし、日曜午前、山形は快晴(夜から台風が襲う)。「練習すればよかった」と自分の判断ミスを後悔しても後の祭り。その悔しい気持ちがあったので、月曜日、米沢に向かう前に、「誰だ、昨日台風が来ると言ったのは。練習できたじゃないか。」と選手に責任をなすりつけて、選手とのフランクな会話において先制攻撃を仕掛けた、という事情です。しかし、この先制攻撃に対して間髪入れず、「カサコーです」と答えて、不当にも責任を一人に帰そうとした〇カ〇ラのような選手もいたことを報告しておきます(手強い)。

うくポストに頭を強打するところだった) や、2年タカヒラが右サイドの**1年ニコラス**のクロスから左足で合わせたシーン(これが決まれば・・・申し訳ありません)なども見られ、結果前半を0-1で折り返す。**山東としては悪くない前半**だ。さあ、後半。風上に立った山東はしっかりと守備から入り、攻撃にも転じていきたいところ。だが、**立ち上がりの5分でなんと立て続けに2失点**。確かに東海は後半からセンターバックを経由しない速い展開のサッカーに切り替えてきており、それに対し山東は後手を踏む形となったが、それにしても**ゴール前の守備が軽すぎ**である。この悪い流れを断ち切ることができず、東海の足の速いFWの選手に何度も縦を突破され、その後も同じような形で3失点を浴びる。何としても点が欲しい山東は、3-4-3のシステムで勝負をかける。相手のミスから**キクチャンが1点返し、その後もタカヒラがドリブルから得点するも**、東海の攻撃を抑えることができず、終わってみれば**2-7の完敗**。途中出場の選手も**2年カサコのガッツあるスライディング**以外は、特に流れを変えることもできずに終わってしまった。

同時刻に行われた試合でモンテBが勝ったため、**この時点で山東のY1残留は大きく遠のいた**。後半は20分間で5失点している。**クロスからの守備には成長を感じるものの、個の部分で簡単に剥がされている**ようでは、いつになっても守備は改善されない。その後の羽黒と米中の試合を見ても分かるように、**我々には攻守に渡ってボールに対する貪欲さが足りない。もっと自分から積極的にボールに関わろうとする選手が増えない限り、守備の課題も克服されないだろう**。

応援ありがとうございました！**グラマネとして、日々の練習からチーム全体の玉際の厳しさや対人の強さをさらに磨いていきたい**と思います。そして、**支えて下さる保護者やOB、先生、コーチの皆さんのためにも次の試合こそは勝ちを届けたい**と思います。今後も応援よろしくお願ひします。

**9月23日(土) Y1 最終節 VS 山形中央B 15:30~ @石鳥居G (山銀グラウンド)**

当初の予定では、山形市球技場となっておりますが、変更となりましたので、ご注意ください。